

製品名: TAF II p250 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18611**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	TAF1
別名	TAF1; BA2R; CCG1; CCGS; TAF2A; Transcription initiation factor TFIID subunit 1; Cell cycle gene 1 protein; TBP-associated factor 250 kDa; p250; Transcription initiation factor TFIID 250 kDa subunit; TAF(II)250; TAFII-250; TAFII250
遺伝子 ID	6872.0
SwissProt ID	P21675
免疫原	抗血清はヒト TAF1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1131-1180

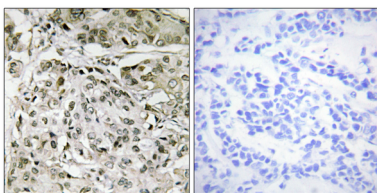
背景

RNAポリメラーゼIIによる転写の開始には、70を超えるポリペプチドの活性が必要です。これらの活性を調整するタンパク質が基礎転写因子TFIIDです。これはコアプロモーターに結合してポリメラーゼを適切に配置し、転写複合体の残りの部分を組み立てるための足場として機能し、制御シグナルのチャンネルとして機能します。TFIIDは、TATA結合タンパク質(TBP)と、TBP関連因子またはTAFとして知られる進化的に保存されたタンパク質群で構成されています。TAFは、基礎転写に関与し、コアクチベーターとして機能し、プロモーター認識に機能し、または一般転写因子(GTF)を修飾して複合体の組み立てと転写開始を促進します。この遺伝子は、TFIIDの最大のサブユニットをコードしています。このサブユニットは、転写開始部位を含むコアプロモーター配列に結合します。また、二触媒活性も有します: $ATP + \text{タンパク質} = ADP + \text{リン酸化タンパク質}$ 。補因子: マグネシウム。疾患: TAF1の欠陥は、ジストニア3型(DYT3) [MIM:314250]の原因です。X連鎖性ジストニアパーキンソン症候群(XDP)とも呼ばれます。DYT3は、X連鎖性ジストニアパーキンソン症候群です。ジストニアは、持続的な不随意筋収縮の存在によって定義され、多くの場合、異常な姿勢につながります。DYT3は、重篤な進行性捻転ジストニアとそれに続くパーキンソン症候群を特徴とします。フィリピンでは有病率が高いです。DYT3では、線条体(尾状核と被殻)の広範なニューロン損失とモザイク状神経膠症という明確に定義された病理があり、ハンチントン病の病理に類似しているようです。酵素調節: Ser残基を自己リン酸化します。網膜芽細胞腫瘍抑制タンパク質RB1によって阻害される。機能: TFIID基礎転写因子複合体の最大構成要素であり、中核骨格である。N末端およびC末端に新規のSer/Thrキナーゼドメインを有し、他の転写因子を自己リン酸化またはトランスリン酸化することができる。TP53のThr-55をリン酸化することで、MDM2を介したTP53の分解を引き起こす。GTF2A1およびGTF2F1のSer残基をリン酸化する。DNA結合活性を有する。細胞周期のG1期の進行に必須です。PTM:試験管内でカゼインキナーゼIIによってリン酸化されます。類似性:TAF1ファミリーに属します。類似性:1つのHMGボックスDNA結合ドメインを含みます。類似性:2つのプロモドメインを含みます。類似性:2つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット:TAF1は、TBPと様々なTBP関連因子からなる転写因子TFIIDの最大の構成要素です。TFIID複合体の一部であるTAF1は、TP53のC末端と相互作用します。RB1はTAF1のN末端ドメインと相互作用します。ASF1AおよびASF1Bと相互作用します。SV40ラージT抗原と相互作用します。

研究分野

タンパク質アセチル化

画像データ



TAF1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。